

編集／発行 ● 山梨県総合農業技術センター
 住所 ● 甲斐市下今井1100 〒400-0105
 電話 ● 0551-28-2496 Fax.0551-28-4909
 http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sougonoshi/index.html
 E-mail sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp



この度の東北大地震で被災された皆様に
 心よりお見舞い申し上げます。
 また、一日も早い農業基盤の復興を祈念致します。



●実証までの開花状況



●講習会の様子



New
Pyramid-AJISAI

●ピラミッドアジサイの鉢花

「総合技術普及センター花き専門科」

花き生産は、市場価格が低迷している中で、新商品の開発や、低コストで栽培できる鉢花の導入等が課題となっています。

平成21年度試験研究の成果として、ピラミッドアジサイ挿し穂を用いて、挿し木後100日で開花する鉢花として出荷が可能であること、この技術を用いた鉢花は、従来のアジサイと違った仕立てと異なるため、新しい商材として期待されます。

総合技術普及センターでは、昨年度から施設鉢花経営での技術実証や市場調査等を行い、施設鉢花やシンビジウム経営の施設占有率低い初夏出荷品目として、技術の普及を図っています。講習会では多くの生産者が参加し、栽培技術について理解を深めていただきました。

現在、さらに出荷時期を早めるための作型や品種の選定など、展示ほを設置し、検討しています。

今後も、花き生産農家の皆さんに試験研究成果等の情報提供を行うとともに、技術の普及を図っていく予定です。

ピラミッドアジサイ短期栽培技術の普及に向けた取り組み

果樹におけるJA営農指導と普及指導活動との連携への取り組み

「果樹技術普及センター」



●モモハモグリガ防除検討会



●花穂伸長講習会

JA営農指導と普及指導活動は、それぞれの役割を果たしながら、相互に連携し地域農業の振興等に貢献していますが、JAの広域合併や普及組織の再編に伴い、より効果的な指導活動を展開する必要があります。

このため、果樹技術普及センターでは、地域普及センターとともにJA全農やまなしや各JAと連携を強化し、果樹の新品種・新技術等の情報の共有化および、栽培技術の統一のための研修会や目合わせ会を行っています。

本年度は、4月18日にモモハモグリガ防除検討会、5月6日に果樹の当面の管理やデラウエアジベレリン処理目合わせ、花穂伸長処理による省力化技術の講習会、23日にシャインマスカット栽培管理研修会、6月9日にサニードルチェ栽培検討会を開催しています。

今後も、農家への直接指導とあわせて、JA営農指導や地域普及センターと合同で各種検討会や研修会等を積極的に開催する中で、効果的な指導体制を推進していきます。



FRUIT OF YAMANASHI
 Shine Muscat Sunny Dolce

夏場7月～9月の平日9時～20時における使用最大電力を15%抑制する「夏期の電力需給対策」を決定しました。



福島第一原子力発電所の事故の影響等により、今年の夏は、電力が不足すると見込まれます。このため、政府の電力需給緊急対策本部は、夏場7月～9月の平日9時～20時における使用最大電力を15%抑制する「夏期の電力需給対策」を決定しました。

電力を最も必要とする夏場の計画停電を避け、青果物の安定出荷を図るため、農業分野でも積極的な節電への取り組みが求められています。県農政部では、施設花き、施設野菜、畜産を中心とした夏の電力不足に対する節電及び高温対策をまとめました。対策の中では、施設や畜舎での遮光ネットの利用、温度の上昇を抑えるための通路や施設、畜舎内外への散水の実施、露地栽培を含めた共通事項として、作業場や倉庫などのこまめな消灯、農業用冷蔵庫でのビニールカーテンの利用などを呼びかけているところです。対策資料は、地域普及センターやJA等を通じて配布するほか、県HPで掲載しています。

JAグループ山梨でも、各JAの事務所や施設ごとに、7月～9月の間、基本的に昨年同期の最大需要電力に対して、15%以上削減した節電計画を策定し、節電に取り組んで行く予定です。また、JAの広報誌を活用して組合員に協力を呼びかけています。皆さんの一人一人の取り組みが大切です。積極的な節電をお願いします。

施設や畜舎での遮光ネットの利用

温度の上昇を抑えるための通路や施設内外への散水の実施

作業場や倉庫などのこまめな消灯

農業用冷蔵庫でのビニールカーテンの利用



RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI 2011

やまなし農業ルネサンス 普及センターの活動報告

新規就農者の経営安定に向けた支援

「中北地域普及センター」



●新規就農者への指導

農村における担い手の高齢化や耕作放棄地の増加が課題となる中、中北地域の新規参入者、Uターン就農者、退職帰農者などの新規就農者は近年、増加傾向にあり、今後の地域農業の担い手として大いに期待されています。

普及センターでは、新規就農者に対して現地ほ場において栽培技術指導を行うとともに、税務管理、青色申告の基礎知識などを学び、経営者としての資質向上を図るための実践能力向上研修を開催しています。

昨年は管内の新規就農者約50名を対象に、税理士とPOP業界から講師を招き、青色申告のポイントや農産物の販売戦略について研修を開催しました。

今後とも、地域農業の将来を担う新規就農者を、重点的に支援をまいります。



●講師を招いての研修会



峡東地域への就農定着に向けて 「峡東地域普及センター」



●ブドウの管理実習



Agri Master

峡東管内への就農定着を目指し、就農定着支援制度推進事業（以下：定着支援事業）が今年も5月6日より始まりました。峡東管内は11名の研修生が、市、JAの協力を得て、山梨市、笛吹市、甲州市の農家（アグリマスター）で、研修に取り組んでいます。

この定着支援事業は、就農間もない方やこれから就農する方を対象に、管内の果樹農家の下で、栽培技術や経営管理技術の習得に向け、果樹栽培の実務指導を受け、就農後のスムーズな経営開始が行われるよう支援するものです。研修生は平成24年3月末には、自分を中心となり果樹経営をスタートします。1年間の短い研修期間ですが、この研修で十分な成果を出し、自分の経営に繋げたいと意欲的です。

現在、「JAフルーツ山梨岩崎支所青年部」では、3名がアグリマスターとなり、勝沼に就農する研修生への支援をグループで行い、研修生がより多くの事例を研修する機会を得ています。また、甲州市では「甲州市就農定着支援制度推進事業」を創設し、地域版の研修制度を開始しており、県の事業と連携を図る中、更なる担い手の確保に取り組んでいます。

今後も、定着支援事業を受けている研修生が、峡東地域に就農できるよう各市、JA等、関係機関と連携し、積極的に取り組んでいきます。

企業の農園づくり活動の取り組み

「峡南地域普及センター」



●みんなで集合写真



●水辺の生き物観察



●田植えの様子

山梨県では、企業の社員研修、福利厚生、社会貢献の活動として農園を活用する「やまなし企業の農園づくり活動」を推進しています。

これを受け、峡南地域普及センターでは、農事組合法人結いの里しもべ（身延町常葉）において、平成22年度末から企業の農園づくり活動を検討してきたところ、パナソニックファクトリーソリューションズ株式会社（昭和町紙漉阿原）が企業の農園として、結いの里しもべの農園を活用することが決まり、1回目の活動として平成23年6月11日（土）に、約5aの水田で田植えを行ないました。当日はあいにくの天候でしたが、楽しく作業することができ、また水辺の生物の観察も行いました。

同社は、この企業の農園づくり活動で、農作業を通じて社員間の親睦を深めるとともに、耕作放棄されていた水田を活用することで社会に貢献したいと考えています。

今後は、秋に稲刈りや落花生、サツマイモの収穫を行う予定です。

NARUSAWA Blueberry ブルーベリーの特産品開発の取組み



鳴沢村道の駅



「富士・東部地域普及センター」

鳴沢村では、多くの観光客が訪れる立地条件を生かし、「道の駅」を核にしたイベントや収穫体験等の取組みを盛んに行っています。その中の一つにブルーベリーの観光摘み取りがありますが、入込み客の伸び悩み等に伴い、果実を有効に活用することが求められています。

そこで、当普及センターでは、平成20年にブルーベリー生産組合に所属する女性達からの要望を受け、「ジャム作り講習会」を開催し、これをキッカケに、グループでジャム作りをすることになり、組織づくりや加工・表示等に係る指導や情報提供を行ってきました。8月には、「ブルーベリー生産組合婦人部」（9名）が立ち上り、初年度は生産量が少ないながら完売し、その後も順調に伸び、「道の駅」の特産品の一つとなっています。現在、更なる新商品の開発や販路の拡大に向けて、試作・検討を続けています。

今後の活動に期待するとともに更なる活動の拡大に向けて支援してまいります。



●加工品試作検討会